



## 津田理子略歴

津田理子は、四歳でピアノをはじめ七歳でモーツァルトのピアノ協奏曲を公開演奏するほどの楽才を示した。

ピアノ曲や歌曲などの作曲をこの頃試みているが、日本学生コンクールなどで度々優勝するなど目覚ましい成績を残す。東京芸術大学、及び大学院にて安川加寿子氏に師事し渡欧。ベルギー、ブリュッセル音楽院にて名ピアニストのエドワルド・デル・プ エイヨに師事。

1976年にはハエン国際ピアノコンクール優勝、併せてスペイン賞も受賞。

1978年にはチリ国際ピアノコンクール第2位。

1980年にはサンタンデール・フェスティヴァルにてスペイン音楽にすぐれたピアニストに与えられるスペイン賞を受賞。

現在、スイス第1の都市であるチューリッヒに住み音楽活動を積極的に行っている。ヨーロッパをはじめとして日本、北米、南米の有名オーケストラと共演し、好評を博している。中でもチューリッヒ交響楽団の演奏会でソリストとして定期的に出演し協奏曲のレパートリーで耳の肥えたチューリッヒの音楽ファンの高い評価を得ている。リサイタルもニューヨークのカーネギー・ホールをはじめ世界各国で行い、専門家をはじめとして高い評価を受けている。また1979年より定期的に帰国リサイタルを行い日本の聴衆を魅了している。

そうした好評に後押しされる形で、2001年より毎年夏、チューリッヒ・トーンハレの小ホールで「津田理子ムジーク・トレッフエン」という室内楽とソロのリサイタル・シリーズを開催。チューリッヒの夏の音楽イベントとして、高い評価を受けている。

津田理子は、ベルギーのCypes社からヒナステラのピアノ曲全集をはじめショパンのピアノ協奏曲など五枚のCDをリリース。レコード芸術誌などで特薦となるなど、高い評価を受けている。

いつでもコントロールのきいた音、響きが出せる津田理子の演奏は、リストの弟子、マリー・ジャエル女史の研究したテクニック(シェーズバス・テクニック)を基にしている。

日本の演奏会については是非、徳備康純氏のサイト“津田理子応援ページ” をご参照下さい。